大学院教育支援機構（DoGS）海外渡航助成金　報告書
Outcome report

計画名 Plan	International Medieval Congress 2023 と Los Bañales 発掘プログラムへの参加
氏名 Name	坂野　水咲
研究科・専攻・学年 Graduate school/Division/Year level	文学研究科歴史文化学専攻修士課程 2 年次
渡航国 Country	イギリス・スペイン
渡航日程 Travel schedule	2023 年　7 月　1 日　　～2023 年 7 月 18 日

・ページ数に制限はありません。No limits on the number of pages
・写真や図なども組み込んでいただいて結構です。You can include pictures or illustrations.
・各項目について具体的に記述してください。Please fill in each item specifically.
・日本語または英語で記載ください。Please use Japanese or English.

渡航計画の概要 Outline of the travel plan

《報告者の研究内容》

報告者は現在、初期キリスト教が拡大する過程で食事という行為とその空間が担った役割、そしてそれを司教たちが民衆とのコミュニケーションにおいてどのように利用したのかを研究している。食事とは誰しもが行う日常的な行為であり、これを紐解くことにより、従来の歴史学では取りこぼされがちだった大衆を含めた、古代の社会を再構成することができる。

主な史料としてはアウグスティヌスの著作を用いており、したがって古代末期(2～8 世紀、申請者は主に 4～5 世紀に注目)における北アフリカの社会を考察の対象としている。

《渡航の目的》

本渡航の目的は

(1)リーズ大学で開催される International Medieval Congress 2023 への参加
(2)ナバラ大学が主催する Los Bañales Archaeology Programme への参加

以上 2 点である。

(1)International Medieval Congress は年に一度開催される約 3000 人規模の大きな国際学会であり、今年度は Taste and Disgust in Late Antiquity という、報告者の研究に時代・テーマが合致する興味深いセッションが設けられていたため、当セッションへの出席と、オーガナイザーであるエクセター大学の院生との交流・その指導教官である Richard Flower 氏からの研究指導を目的としてイギリスに渡航した。

(2) Los Bañales はスペインの北部、サラゴサから車で 1 時間程度の距離にあるローマ時代の遺跡である。都市なのか村落なのか、その規模もまだ不明ではあるが、近年の発掘調査では碑文や獣骨、陶器などの日用品が出土している。本プログラムはナバラ大学上級准教授である Javier Andreu-Pintado 氏の指揮のもと、チームの一員として発掘作業を行い、出土品の分類や修復なども含め、考古学調査を実地で学ぶものである。ローマン・スペインは厳密には報告者の研究対象地域と異なるが、報告者が行っている食の歴史研究は獣骨データのような考古学調査の成果を活用することも多く、今後研究を続けていくにあたって考古学の研究成果を適切に理解し利用できるようになる必要性を感じているので、本プログラムに参加した。

なお、(1)(2)の間には 1 日余裕があったので、イギリスの北部、ハドリアヌスの長城付近にある Vindolanda を見学した。この遺跡はローマ帝国におけるフロンティア地帯の要塞であり、

特に木簡史料によって知られている。Los Bañales のプログラムに参加する前に、軍事要塞の遺跡を見学し、調査の成果がどのように一般の人々に向けて展示されているのかを知る事で、フィールドワークの最適な事前学習ができた。

成果 Outcome

(1) International Medieval Congress 2023

2014 年から 2019 年にかけて計 7 冊 *The Senses in Antiquity* という論集が編まれているように、「感情史」に続いて「感覚史」は現在歴史学において注目を集めつつあるテーマである。セッション Taste and Disgust in Late Antiquity はこのような学会動向を反映したものであり、学部生の頃から古代ローマの食の歴史、つまりローマ人の味覚とそれを共有した空間について研究を行っている報告者にとっては、近しいテーマの研究成果を学び、意見交換をする絶好の機会であった。当セッションの発表者は 12 人、いずれも博士課程に在籍する若手研究者であり、歴史学に限らず考古学や文学の視点も含む、様々な視角からの Taste / Disgust に関する最新の研究とその手法を学ぶ事ができた。更に報告者の指導教官藤井崇准教授の紹介により、当セッションに参加していたエクセター大学の Richard Flower 氏から、持参した修士論文の計画と、博士課程進学後の研究方針・史料について、多くの助言を得た。またセッション後、参加していた古代末期研究者の食事会に参加し、若手研究者との交流を深めた。

(2) Los Bañales Archaeology Programme

本プログラムでは 7 月 10 日から 14 日の 5 日間に渡り、

6:30-13:00 発掘作業

昼食・休憩

15:45～18:00
滞在している Uncastillo の研究所にて、出土品の洗浄・分類・ナンバリング作業

休憩・遠足など

20:45 夕食

Los Bañales（報告者撮影）
2 本の柱が象徴的

というスケジュールを過ごした（15 日は遺跡の清掃を行った）。

研究所での作業にあたっては、ローマの陶器の専門家から出土品の数え方や、装飾や用途による分類の方法をレクチャーしてもらい、他の生徒とペアになって実際に作業を行った。

洗浄・分類などの作業が行われた出土品（陶器）

発掘作業での発見については未確定な事柄も多く、まだ公にしてはいけないと注意されているため、詳細は記述できない。しかし、報告者が担当した区域はおそらく運河のような形で水が流れていた場所で、そのため沢山の陶器の欠片や獣骨、ガラスが出土し、加えていくつかの重要な発見があった。

Decumano(Decumanus) N. 23055
町の最北端に位置し、一段窪んでいる部分に水が流れ排水の役割を担っていたと考えられる。

また本プログラムにはスペインの学生だけではなく、チリ、アルゼンチン、イタリア、ハンガリー、フランス、アメリカ、イギリスといった多くの国々から学生が参加しており、ともに作業を行い、寝食を共にする間に交流を深めることができた。

なお、帰国後報告者は所属ゼミにおいて本活動についてのプレゼンテーションを行い、その様子が発掘プロジェクトの SNS アカウントで紹介された。わずかではあるが、研究活動の国際交流に貢献できたのではないかと思う。

※調査活動についての更なる情報は、公式 SNS アカウント参照
Facebook: https://www.facebook.com/LosBanales
Instagram: @losbanales

今後の展望 Prospects for the future

本渡航を通じて報告者は、(1)古代末期における感覚史についての最新の研究動向を学び、(2)研究方針をブラッシュアップし、(3)考古学の成果を適切に活用するための知識と経験を得て、(4)海外の若手研究者との交流を行うことで、修士論文、ひいてはその先の研究に繋がる知見を得た。

今後は、現在用いている文献史料に加えて考古学史料も適宜参照しながら修士論文を完成させ、進学後は得られた人脈を活用しつつ、古代ローマにおける食事と信仰についての研究を進めていきたい。